

問合せ先

警備救難部国際刑事課 海賊対策官 島谷

03-3591-6361(内5503)、03-3581-1701(直通)

平成18年11月29日

海上保安庁

インド洋における海賊対策官民連携訓練の実施について

海上保安庁及び第三管区海上保安本部横浜海上保安部所属巡視船「しきしま」は、国土交通省海事局、(社)日本船主協会、川崎汽船(株)及び日本籍船LNGタンカー「ゼクリート」と共に、海賊対策官民連携訓練を実施しました。

I 目的等

海上保安庁では、海賊及び海上テロ対策に関する相互協力及び連携の推進・強化策の一環として、年間数回東南アジア諸国等へ巡視船を派遣するとともに、公海上において所要のしょう戒活動を実施しており、巡視船「しきしま」は、11月6日に横浜を出港し、インドに派遣されていたものです。

海賊事案への対応に際しては、官民が密接に連携して対処する必要があることから、上記派遣中の巡視船「しきしま」と民間船舶が、インド洋公海上において、海賊対策官民連携訓練を行い、官民の連携強化を目的としたものです。

II 訓練参加機関等

海上保安庁

巡視船「しきしま」(第三管区海上保安本部横浜海上保安部所属)

国土交通省海事局外航課

社団法人日本船主協会

川崎汽船株式会社(運航者、船舶管理者)

日本籍船LNGタンカー「ゼクリート」

III 訓練日時

平成18年11月28日 14:00~15:25(日本時間)

IV 訓練概要

以下の想定に基づき、上記訓練参加機関等により通信訓練(情報伝達訓練)を実施した。

(1) 海上保安庁に対し、日本籍船LNGタンカー「ゼクリート」(船舶管理者:川

崎汽船株式会社、総トン数：111,124トン、乗組員：29名（日本人10名、フィリピン人19名）から、SSAS（船舶警報通報装置）により、インド洋（北緯05度37分、東経080度10分（インド洋：スリランカ沖南約25海里））において、海賊の襲撃の情報が入る。

- (2) SSASによる通報を受けた後、海上保安庁は、船舶管理者である川崎汽船株式会社に事実関係の確認を実施するとともに、海賊対策室を設置。インド洋をしよう戒中の巡視船「しきしま」を現場に派遣。
- (3) 「ゼクリート」の回避行動により、海賊は乗込みをあきらめ逃走。
- (4) 巡視船「しきしま」及び搭載機により、現場海域において、不審な船舶の捜索を実施するも発見に至らず。